映画・アニメ・配信を多読・多聴の教材に

～覚えた英語と，作品の中で再会する～

岡﨑　修平

1．はじめに

単語帳で覚えたはずの単語なのに，長文に出てくると意味がとれない．文法問題は解けるのに，同じ形が長文の中に現れると読み解けない．そういう悩みを抱える学習者をよく見かけます．

単語や文法を，単語帳や問題集で覚えるか，長文などの文脈の中で覚えるかは，よく議論されるところですが，どちらも必要だと考えています．単語帳や問題集で効率よく数を押さえ，同時に文脈の中で使われ方を確かめる．この両輪で進むのが基本だと思います．ただ，生徒を見ていると，暗記や文法問題を解くことに時間を割くことが多くなりがちです．覚えた単語や文法に，文脈の中で出会い直す機会は，意識して作らないとなかなか増えません．

私は予備校で十年以上英語を教えてきました．今は自分の塾で教えながら，YouTube で映画やアニメ，配信者の雑談などの生の英語を題材にした英語の解説動画も作っています．その経験を踏まえて，本稿では，リアルな英語の素材を多読・多聴の教材として使い，単語帳や問題集で学んだ語彙と文法を文脈の中で定着させる方法を考えます．目標は，覚えた単語や習った形に，実際の使われ方の中で出会い直す機会を作ることです．

2．学んだ内容と作品の中で再会する

映画やアニメを見ていると，単語帳で取り上げられている表現に何度も出会います．reluctant や inevitable のような，やや硬く感じる単語も出てきます．subtle のように，単語帳の意味だけではつかみにくいものも，映画だけでなく，雑談やゲーム配信の中で普通に使われています．

試験のために覚えた単語が，作品の中で，あるいは配信者の雑談の中で使われている．これは生徒にとって小さくない発見になります．覚えた語彙が試験のためだけのものではないと，実感として分かるからです．

そして，覚えた単語に別の場面で出会うたびに，記憶は強くなります．多読や多聴が語彙の定着に効くと言われるのは，この出会い直しの回数を増やせるからです．

文法も同じです．仮定法や関係詞など，授業で学んだものに，会話の中で実際に使われている場面で触れることによって，定着させることができます．

問題は，そのように文脈の中で単語や文法に出会う機会が不足していることだと思います．

その機会を作りやすいのが，映像を使った素材です．単語帳を使うとき，私たちは英語と日本語を一対一で結びつけます．短時間で数を回せるので，効率のいい方法です．ただ，その単語がどんな場面で，どんな気持ちで使われるのかまでは分かりません．映像では，そこを補うことができます．登場人物の表情，間の取り方，声の調子，相手の反応．そこまで含めて記憶に残ります．

たとえば hesitate です．単語帳では「ためらう」という訳で覚えます．実際の作品では，You hesitated. のような形でよく出てきます．決断すべき場面で相手が一瞬迷ったことを，あとから指摘する台詞です．その直前に何が起きていたのか，どんな表情でそう言ったのか．そこまで一緒に見た単語は，次に出会ったときに，訳語より先に場面のほうが浮かびます．

私自身も，多くの表現を作品の中で覚えてきました．この単語はあの作品のあのキャラクターが使っていた，この表現はあの配信者があの場面で使っていた．そういう形で残っているものがかなりあります．訳語だけで覚えたものより，強く印象に残っています．

同じ単語に別の場面で出会えるのも，映像の利点です．I won't hesitate to ～の形なら，「ためらわずにやるぞ」という警告になります．Please don't

hesitate to ask. なら，「遠慮なくお尋ねください」という丁寧な言い方になります．同じ単語でも，場面によってずいぶん違う顔を見せます．そうやって繰り返すうちに，訳語一つでは説明しきれない使い方の幅が見えてきます．

話し手の感情まで一緒に受け取れることも大きな利点となります．同じ文でも，どんな気持ちで言うかで受け取り方が変わります．たとえば，心配してくれた相手に返す一言を見てみます．

⑴ I appreciate your concern.
「お気遣いに感謝します」

素直にお礼を言っているのか，やんわり突き放しているのか．文字だけでは判断がつきません．実際には but が続いて，申し出を断る前置きになることもよくあります．映像なら，表情と声の調子から，どちらなのかが伝わります．どんな場面でその表現を使うのかを，説明ではなく体験として受け取ることができます．

３．場面の中で文法に触れる

文法も，実際に使われている場面を見ると，その形が何のためにあるのかが分かります．

⑵ If I were you, I'd think twice before turning it down.
「私があなたなら，断る前にもう一度考えます」

仮定法は，公式として教わることが多い項目です．⑵では，「私があなたの立場なら」と仮の立場に置きかえてから助言しています．You should think twice. と直接言うよりも一歩引いた言い方になります．現実とは別の立場を示すために過去形を使う，という仕組みを，場面と一緒に理解することができます．

⑶ There's someone in my department who's been doing this a lot longer than I have.
「うちの部署に，私よりずっと長くこの仕事をやっている人がいます」

⑶は，There's someone とまず切り出してから，who 以下で人物の説明を足していく形です．現在完了進行形と比較が後ろに続き，最後の have のあとには been doing this が省略されています．整えられた例文とは組み立ての順序が違います．こういう文に触れておくと，関係詞が後ろから説明を足すための道具だということが分かります．

習ったばかりの形が使われている場面を見るのは，それ自体が発見になります．文法が，覚える対象から，読み解くための道具に変わります．

４．既知の単語の意外な意味

もう一つのメリットは，知っている単語の別の使い方に出会えることです．単語帳は一つの単語に代表的な意味を当てて，効率よく数を押さえるように作られています．そのぶん，同じ単語が別の意味で使われる場面までは載せきれません．

⑷ I don't follow.
「話が見えません」
⑸ You have a point there.
「それは一理ありますね」
⑹ The offer still stands.
「その申し出はまだ有効です」

follow を「ついていく」，point を「点」，stand を「立つ」と覚えていても，⑷から⑹の意味はそこからは出てきません．どれも入試の長文や会話問題で見かける使い方です．ただ，基本的な単語ほど意味の幅が広いので，単語帳ではそこまで扱いきれません．長文で意味がとれない原因が，知らない単語ではなく，知っている単語の別の意味にある．そういうことはよくあります．

こうした使い方は，一つずつ暗記するよりも，文脈の中で何度か出会って拾っていくほうが向いています．映画やマンガは，その出会いの場になります．

５．どの素材を，どう使うか

では，多読・多聴の素材として取り入れやすいものを見ていきます．

いちばん取り組みやすいのは，Netflix などの配信サービスです．英語音声と英語字幕の両方を選べる作品が増えて，以前よりアクセスしやすくなりました．海外のドラマや映画なら，たいていどちらもそろっています．

ただ，日本のアニメになると，英語音声がついたものはまだ限られています．とはいえ，英語音声がついていなくとも，英語字幕はついていることが多

いです．日本語の音声のまま，英語字幕をオンにして見る．これでも十分に勉強になります．画面の場面と英語の表現が結びつくからです．すでに見たことのある作品なら，話の展開が分かっているぶん，字幕のほうに注意を向けられます．

始めるときのハードルは，できるだけ下げておいたほうがいいと思います．英語音声で，字幕なしで，最後まで見る．そこまで求めると，続けられる生徒は限られます．好きな作品を英語字幕をオンにして見る．そのくらいから入れば十分です．

作品選びでいちばん大事な条件は，好きな作品であることです．レベルが合っているかどうかより優先していいと思います．内容に興味がなければ続きません．目安を挙げるなら，会話の場面が多く，専門用語の少ない作品が取り組みやすいです．日常を舞台にした作品や学園もののアニメは，出てくる語彙も生徒の生活に近くなります．医療や法廷を舞台にしたドラマは，そのぶん語彙の負担が大きくなります．

YouTube の配信もよく勧めています．無料で，気軽に，実際に話されている英語に触れられるからです．ライブ配信は台本のない会話が中心なので，言い直しや間の取り方もそのまま残っています．ただし，配信は難易度の高い素材でもあります．速度が速く，話題も前触れなく飛びます．いきなり字幕なしで挑むと，ほとんど聞き取れないまま終わってしまうことがあります．

そこで，解説つきの動画から入るのがオススメです．私も「ホログリッシュ」という YouTube チャンネルで，配信に出てきた表現を解説する動画や，語彙を増やすための動画を作っています．こうしたものを足がかりにして，慣れてきたら元の配信を直接見る．この順序なら無理がありません．

読む素材としては，英語版のマンガがあります．マンガは絵が文脈を補ってくれるので，未知語があっても読み進められます．コマごとに区切られているぶん，一度に処理する英文の量も少なくて済みます．多読の入り口として使いやすい素材です．

マンガで読むなら，Langaku というアプリを勧めています．集英社の作品を英語で読めるもので，英語のコマ数を 4 段階で調整できます．最初は英語のコマを少なめにしておいて，慣れてきたら増やしていく，という進め方ができます．分からないコマはタップすると日本語に切り替わります．単語をタップすれば意味が出て，AI がその場面の文脈に合わせて解説を足してくれます．音声の再生もできるので，読むだけでなく音でも確認できます．学校や塾向けの団体プランもあるので，授業で使うことも考えられます．

どの素材を使う場合も，ただ見ているだけでは気づけないことがあります．そこで，1 文でいいので書き取ってみることを勧めています．聞き取れているつもりの箇所が，書こうとすると書けない．そこで初めて，自分が何を聞き逃していたのかが分かります．音がつながっていたのか，知らない単語だったのか，形を知らなかったのか．原因まで見えてきます．

私が開発している「Purrdon?」というサービス（Google Chrome 拡張機能）では，作品の場面ごとにディクテーションができて，AI による解説を読んだり，出てきた表現をそのまま単語帳に追加したりできます．また，アニメを題材にしたディクテーションの企画を，「PHOTOGLISH」という YouTube チャンネルで行っています．こうしたものも使っていただけたらと思います．

6．全部を理解しようとしなくていい

ここまで挙げてきた素材には，注意しておきたいこともあります．実際に使われている英語には，高校の授業で扱わない部分がかなり含まれています．代表的なのは話し言葉の文法です．学校で扱う英語は書き言葉が基準になっています．ところが会話では，単語が落ちたり，形が崩れたりします．

⑺ You seen this?
「これ，見た？」
⑻ Gonna be a long day.
「長い一日になりそうだ」
⑼ It's not that I don't like it. It's just ... I dunno.
「嫌いってわけじゃないんです．ただ，なんというか，よく分からなくて」

⑺は Have you seen this? の have が落ちた形です．⑻は It's going to be a long day. から It's が落ち，going to が gonna になっています．⑼の I dunno は I don't know の崩れた発音が，そのまま綴られたものです．

説明されれば分かりますが，音として流れてきたときに聞き取れるかどうかは別の話です．文字で見れば分かるのに聞くと分からない．その原因が語彙ではなく形にある，ということはよくあります．

こうした話し言葉の崩れを，高校の段階で体系的に押さえる必要はないと思っています．入試や資格試験に向けては，まず学校で扱う内容を固めることが優先です．映画やマンガで出会ったものを，そのつど少しずつ拾っていく程度で十分だと思います．生徒に伝えたいのは，分からない部分があって当たり前だということです．聞き取れないところは飛ばしていい．全体で何の話をしているかが分かれば，その回は成功と考えていい．ここを共有しておかないと，聞き取れないことを失敗と受け取って，やめてしまうこともあるかもしれません．

そのうえで，興味があって余裕のある生徒には，こういう領域があることを伝えておくといいと思います．大学に進んで英語を使う場面が増えたときに，あらためて取り組む価値のある部分です．そういうものがあると知っておくだけでも，あとで戸惑いが小さくなります．

7．授業と個人学習にどう組み込むか

授業に入れる場合，まとまった時間を取る必要はありません．

1分から3分程度のクリップを1つ見せるだけでも，導入として十分に機能します．その回に扱う文法項目が使われている場面を選べば，これから学ぶことが実際に使われている，という前置きになります．学び終えたあとに見せて，習った形を探させることもできます．

手順としては，まず字幕なしで一度見せます．次に英語字幕をつけてもう一度見せます．最後に，注目させたい1文だけを取り上げて説明します．この三段階なら5分でおさまります．聞き取れなかった音が字幕で埋まる瞬間があるので，そこで生徒の反応が変わります．最初の一回の前に「何の話をしているかだけ聞き取ろう」と目標を示しておくと，全部聞き取ろうとして固まってしまうのを防げます．紹介する作品は，先生ご自身の好きなもので構わないと思います．その作品のどこが面白いのかを語れる人が紹介したほうが，生徒には届きます．

個人学習として勧める場合は，時間を決めておくと続きます．1日15分といった程度で十分です．週末に3時間見るより，毎日15分のほうが続きますし，音への慣れという点でも有利です．

字幕の扱いは，授業の手順と逆でも構いません．個人学習では，最初から英語字幕をつけて内容を追いやすくしておいて，同じ場面を字幕なしでもう一度見る．この順序のほうが負担が少なくなります．日本語字幕で見る回を作っても構いません．一度内容を理解してから英語に戻るほうが，単語や形に注意を向けやすくなります．

8．おわりに

映画やドラマを字幕なしで理解できるようになること．それを目標に据えると，多くの生徒にとっては遠すぎる話になります．目標はもっと手前でいいと思っています．単語帳で覚えた単語が，作品の中で誰かの口から出てくる．授業で習った形が，会話の中で使われている．その一致に気づく瞬間があれば，それで十分です．

覚えた単語や習った文法と映像の中で再会する．そういう経験が一度でもあると，次に単語帳を開いたときの感じ方が変わります．単語帳や問題集で覚える学習と，文脈の中で確かめる学習は，どちらかを選ぶものではなく，両方あってはじめて回り出す両輪だからです．

授業では5分もあれば，習った形が使われている場面を1つ見せられます．家では10分もあれば，気になった台詞を字幕で確かめられます．そうした小さな繰り返しが，単語帳の知識を，長文の中で働く力に変えていきます．まずは一つの場面から，取り入れていただけたらと思います．

（PHOTOGLISH／岡崎修平塾 代表）